

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	1690900087		
法人名	社会福祉法人 手をつなぐとなみ野		
事業所名	共生型グループホーム らぶあけぼの		
所在地	富山県小矢部市綾子5599番地		
自己評価作成日	平成30年1月24日	評価結果市町村受理日	平成30年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/16/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigyouvoCd=1690900087-00&PrefCd=16&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会
所在地	富山県富山市安住町5番21号
訪問調査日	平成30年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

障害の有無、老若にかかわらずその人の人格と人間としての尊厳を護られながら、生まれ育った地域で住み続けたいという思いを大切にします。
「共に生き、共に働き、共に暮らす」を活動理念とし、知的障害者と認知症高齢者が、ふれあいいたわりあい、支えあいながら一つ屋根の下で暮らす共生社会の実現を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・特性は、『共生型』グループホーム。理念に基づいた実践として、能力や世代が違う者が暮らしを重ねることでのじみの関係が生まれ、深まる。廊下に響く挨拶や会話、また互いの力を活かし、助け合う場面もあり、カタチでは見えない優しさや温かさのある繋がりを感じる。
・事業所隣に運営法人本部事務所がある。本部職員の協力を得ながら、隣接「石動駅前」及び「綾子」町内会に所属し、関係の構築に努めている。中でも、当法人が主体となり2つの町内会、近隣で活動している社会福祉法人に呼びかけ様々な機関をつなげ、みなが参画し、利用者や地域住民、福祉サービス利用者・関係者など400人以上集まる夏祭りを開催し、地域福祉に寄与している。

400

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回の職員会議では、会議の前に全員で理念及び基本方針・倫理綱領・職員行動指針などを唱和し、基本に立ち返り実践につなげる努力をしています。	理念、基本方針などに基づいたサービスの実践を意識するよう唱和し努めている。また、職員が順番に毎月のケア目標を考え職員会議で検討、事務所に掲示し目標意識を高めて従事する環境を整えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の方から毎月行事の案内や市報などを届けてもらっている。可能なものであれば祭礼・地蔵祭りなど見学にいたりして交流を深めている。また、散歩などを通してこちらから挨拶をして近所づきあいを大切にしています。	「石動駅前」・「綾子」両自治会に加入し、地域のえざらいなどに参加している。回覧などを通して地域の様子を知り、祭礼や地蔵祭りには希望者と出掛け、地域住民と関わる機会を大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に発行している広報を地区の方々の家に直接届けたり、納涼祭などの行事には別途案内をして参加してもらい理解を深めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に、地域の方、市役所の方との話し合いを行って活動状況などを報告している。	前自治会長・民生委員・市担当課職員・家族代表・本部職員などが会議に参加、2カ月毎に開催し、議事録も作成されている。その機会に、ボランティア活動の受入れ希望があるなど双方向的な内容になっている。	利用者家族からは、代表1名(事業所から依頼)のみの参加にとどまっている。開かれたサービス実践や事業所の現状などの理解を深めるためにも、多くの利用者家族の参加、また議事録の公開や配布などの工夫に期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の席上や地域の民生委員、社会福祉協議会の方々との情報交換会等で事業所の取り組みを報告したり疑問点を相談したりしている。	毎回担当課より職員が運営推進会議に参加し、現状を把握している。事業所の空室状況なども、行政や地域包括支援センター、基幹型病院連携室などに連絡しその都度調整を図っている。また、市が主催する研修会への参加も記録として残っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方針のもと、利用者支援に取り組んでいる。いつでも安全面を最優先した支援を行い、時には勉強会を設け学び合い身体拘束しないように取り組んでいる。	身体拘束を含む虐待について、法人全体で事例検討を含め研修に取り組んでいる。しかし、施錠やスピーチロックなどを含めた認知症高齢者の特性に対応した身体拘束防止マニュアルや指針、同意書などは作成されていない。	認知症高齢者の特性も踏まえた身体拘束防止の指針及びマニュアルを作成し、拘束による弊害について理解を深めると共に、緊急やむを得ない場合の対応についても手順を定め周知することが望まれる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、利用者本位を心がける目標を立て、日々虐待、言葉の暴力などない様に心がけている。また、声を掛ける時には、優しく目線を合わせ敬う気持ちを持ちながら関わっている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部の研修会が有れば可能な限り参加し理解を深めると共に、職員会議で報告をして全職員にも徹底できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に利用者・家族の立場に立って、十分に理解してもらえるように説明を行い変更時にはその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、サービス計画書の説明時、意見や不満、苦情について話せる機会を設けている。納涼祭など行事への参加もお願いし、話し合う機会を設けている。	利用者には、暮らしの中でさりげなく願いや思いを引き出すよう意識し、家族などには、計画作成担当者や担当者が中心となり、面会や行事参加時など、介護計画を踏まえた要望の抽出に努めている。しかし、その意見や要望の記録が共有・活用されているとは言い難い。	たくさんの方が関わる豊かな共生型の環境を生かし、様々な立場から利用者などの思いを表せる機会や汲み取る仕組みを検討・実践し、それらの情報が職員や関係者で共有され、サービスに反映させていく取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・ケア会議などを利用し、お互いの意見を聞き、調整し全職員で共有し速やかに運営に反映するようにしている。	毎月の職員会議で、脱衣室の手すりや玄関前エントランスの屋根の設置、リフト付き車両導入などの要望を本部に伝え、整備が行われている。管理者が中心となり、職員の意向の把握に努め、有給休暇などもとりやすいよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望を伺いお互いに働きやすいように作成している。又研修会などがあれば、順番に全職員が受講できるように配慮してお互いに自己のレベルアップに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々に応じた内部・外部の研修会に参加してもらい、毎月一回の職員会議ではミニ勉強会をして研修報告を兼ね発表し知識を深めるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の社協が主催するグループホーム連絡協議会で情報交換している。また、同業者の見学を受け入れたり研修に参加したりしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	定期的な家族の面会をお願いするとともに、本人の生活歴や現状などについてお互いに話し合いながら安心して過ごせるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの思いや要望、不安などについて真摯に受け止め対応するよう心掛け、実行するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の面談に於いて、利用者、家族の思い、現状などを考慮し、個別のサービスを提供するなどして安心して頂ける様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事(テーブル拭き・シーツ交換・じゃがいもの皮むきなど)や生活の全般を役割を持って頂き互いに助け合い励まし合いながら、過ごしてもらえるように支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度のらぶあけ通信で近況報告したり、面会時には日頃の様子を伝えるなど利用者と家族の繋がりを大切にするよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで歩んでこられた人生を把握し日々の生活を支援する。また、馴染みの方の面会、思い出の場所を訪問したりしている。1名の利用者は昔から通っている理髪店へ行っている。	利用者にとっての馴染みの関係がどうか、担当者を中心に把握と職員及び家族間での共有に努め、出掛けたい場所、会いたい人、また少し距離を置きたいことなど、新たな馴染みの関係性も踏まえ、職員は思いに沿った支援となるよう調整を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の思いを理解し孤立しないよう気を配っている。レク時には各利用者が楽しく交流できるよう間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にはアセスメント情報を提供している。また退所後に入所された施設や家族からの相談にも応じ、利用者が安心して暮らせるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との日頃からのコミュニケーションや言動、家族の話などから本人の思い、意向の把握に努めている。	普段の行動や会話の中の言葉から思いの把握に努めている。職員と1対1やレクリエーション・体操の場で、自ら話し出される時にはゆっくり聞いてあげるようにしている。大事な事柄は職員間の話し合いで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族、ケアマネより情報を得て生活歴、生活環境を把握し入所後はケア会議を通して職員全員が情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、行動経過表に言動を記録し、1日の過ごし方を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1か月に1回のケア会議において情報提供、またそれ以外でも意見を出しあって見直している。	ケアマネジャーが利用者毎の担当職員とアセスメントをとり、面会や更新時に聞いた家族の要望や、ケア会議での職員の意見を合わせて介護計画を作成している。申し送りやケア会議で本人の様子を聞きとり見直し更新している。	アセスメントやケア会議等の意見や要望の記録を共有・活用し、それらに基づいた一人ひとりの介護計画が作成されサービスに反映される事が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者さんの行動記録、申し送りノートなどを参考に職員全員が情報を共有しケアに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の受診等、家族が同行できない利用者さまは職員が同行している。また、季節に合わせて地域のイベントや祭りを見物に行き楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	バスハイク、散歩、地域の祭礼、催し会に参加して楽しめるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に受診し、家族が同行できない場合は看護師が同行し医師からの情報を家族に伝達している。	ほとんどの方が入所前からのかかりつけ医に続けて受診している。受診前に看護師が本人の状態を書いた書面を家族に渡している。かかりつけ医とは日頃から連携を図っており良好な関係ができています。眼科の訪問診療を受けている方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2日の看護師の出勤時に情報を確認し助言、指示をしてもらっている 連絡ノートの活用。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報整理表を医療機関に提供し、退院後には入院中の様子や退院後の指示を文書、口頭で得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、主治医、家族と今後の方針について話し合い、連携を図りながら取り組んでいる。	利用者の状態に変化が見られた時は、早い段階で家族に伝え話し合っている。かかりつけ医と連携を図りながら家族、職員と一緒に今後についてどう支援するかを決めている。これまでに看取りの実施はないが本人、家族の希望を聞き、できる限り寄り添う支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について定期的に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練(うち1回は消防士立ち会いのもと夜間想定で)と、年1回のシェイクアウト訓練を行っている。	水・食料品の備蓄や防災用品を準備し、法人内合同での避難訓練を実施している。市の災害講習会に参加し災害ハザードマップの情報を確認したり、運営推進会議で議題に上げて話し合っている。法人内本部では災害自主防災計画を作成し、地域と共に災害対策の共有を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の目線に合わせて穏やかではっきりした言葉かけや対応を心がけている。排泄、入浴時はプライバシーに配慮した対応をしている。	本人の希望を聞いて入浴・排泄時の同性介助やプライバシーを守る介助に努めている。法人全体でも利用者支援の理念で、声かけの大切さを意識づけできるように、勉強会、研修会等を開催し全職員が参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動を通じて自己決定できるよう働きかけている。日頃の会話の中で希望することを職員が把握し実行に向けて取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行動経過表を活用し生活状況を把握し生活リズムを大切にしている。役割をもって生活できるよう本人の状態に応じた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その時々や季節に応じた服を着てもらよう支援している。身だしなみについては声掛けし直してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	トレーの準備、テーブル拭き、お茶入れ、配膳、下膳を一人一人の能力に応じて行ってもらっている。食事時には音楽を流し楽しく食事できるような雰囲気作りをし、食器等の工夫によりなるべく自分で食事を摂って貰える様支援している。	利用者の希望されたメニューを行事や誕生日の献立にしたり、新年会で職員と一緒に昼食を食べるなど食事の楽しみを大切にしている。利用者は毎食時、準備や後片付けなどできる役割を持っている。毎年の恒例行事での外食や夏祭りの食事などは特別な楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事の摂取量を記入している。また10時、15時、入浴後以外でも水分補給を行い、なるべく1日1500ml摂取するように心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがい(イソジン)を徹底している。一人では困難な利用者は仕上げ磨きを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録において排泄状態、排泄パターンを記録し、パターンに合わせ誘導や声掛け、介助を行い失敗の防止に努めている	一人ひとりの排泄パターンに合わせて声かけ、誘導しその方に必要な介助を行っている。行きたくない拒否があっても自分から行けるように声かけし、さりげない介助で失禁なく気持ちよく過ごせる支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を改善する為に水分の補給をしっかりと行っている。また、散歩や歩行運動など身体を動かすように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回入浴を実施している。入浴時、プライバシーに配慮してゆっくり入っていただけるよう声掛けしたり会話を楽しんでもらっている。	お風呂の順番は利用者の希望の「一番」や「最後に」をできるだけ聞いている。拒否がある時は、その方に合った声かけを工夫したり、ケア会議でアイデアを出し合って一人ひとりに合わせた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に深い眠りについてもらうため、日中は昼食後に20～30分と時間を決めて昼寝してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬状況をまとめ変更や追加時その都度職員間で伝達し、副作用についても話し合い不調の早期発見につとめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	いくつになっても誰かのためになっているという気持ちになってもらうため出来る範囲で職員の手伝いをしてもらっている。(洗濯物たたみ、米とぎ、雪かき、テーブル拭きなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買物はレク時や本人の希望により適宜行っている。年に2回、初夏と秋に全員参加の行楽行事を実施している。	その日の天候により、外の空気を吸いに出て散歩をしたり、希望があればドライブや買い物に出かけている。季節毎の行事を楽しみにしている利用者とは行き先の話題で話が弾んでいる。夕方になり家に帰りたいと言われた時は、一緒に外に出て少しの距離を歩き、落ち着いてもらっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお金を預かっており、病院の受診料、小遣い等を管理している。本人が欲しい物があれば職員の付添のもと買い物にでかけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から家族に電話することはないが、家族からの電話があれば必要に応じて対処している。年賀状を書いてもらい、家族との繋がりを大切にもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度計を基に過ごしやすい環境を整備している。玄関前には季節の花を植え、また四季を感じられるような装飾をリビングや廊下に掲示している。	リビングは、天井が高く明るい日差しが窓越しに入ってくる。利用者はテレビ体操やレクリエーション、お経をあげる事を日課にし週末になると2階の利用者も集い共に過ごすスペースとなっている。また、自分で決めた歩行訓練で廊下を往復し、毎日の運動を続けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の座席を仲の良い方と近くになるよう工夫したり、一角にソファを置き利用者同士が自由に過ごせるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち込んでもらったり家族写真を飾ったりして居心地よく過ごしてもらえよう心掛けている。	自宅にいた時愛用していたラジオやハーモニカを持参して音楽を聞いたり、折り紙や編み物など自分の趣味ややりたい事をして自分の部屋で思い思いに過ごしている。	利用者アンケートには居室でのテレビ鑑賞についての要望が寄せられており、居室で過ごす時間がさらに楽しくなるよう配慮が望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口、下足入れ、トイレ等に名前や目印を表示しその時々声かけにより混乱が無いように配慮している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期間
1	2	万が一の災害、火災の時に勤務の職員だけでは対応できない。勤務外の職員が到着するまでが大変不安である。	地域の消防団員の方々に救助を手伝ってもらいたい。	現在「石動駅前」と「綾子」両自治会に加入し、江湊いや祭礼等に参加している。そういう行事を通し地域の消防団員とも顔なじみになり、避難訓練等にも参加してもらう。	6ヶ月
2	4	2か月に1度の運営推進会議には民生委員や、市担当職員、家族代表などが参加し、その議事録も作成しているが、利用者家族は代表の1名のみの参加にとどまっている。	利用者家族に、開かれたサービスの実践や事業所の現状などの理解を深めたい。	議事録を公開や配付したり、他の家族にも参加してもらうなど検討したい。	2ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。